高砂乃高根
上
特別
へ24
4892
1

特
門 ヘ 24
號 4392
卷 1

昭和二九年
二月五日
購求

帝國圖書館藏

是檀亭子之所著泊酒舍菊
常曰脩辭之道亦轉俚為雅
能此則庶矣且夫慈母閒談
乳孃俚話大兄之吻阿姊之
說固小兒子之所樂聞也而
天道寓焉猶不解乎善惡

聽報之理也斯冊也櫻亭子學寫而亦有補薫陶矣

友人　三爵維無誌

梧岡山人書

舞て後商家なり作るまく作はこれ寅の
法ゝ為にあれを薛寅こもの[illegible]
おこのこをなくしもあれの古はなきこん
をもくはなしこうこうこまきてあるん是有
つまいて考まるの古はは商長東方野とか
いろんの得ふもあるもう

九江侍人 桃花記

桃江侍人 晋書

ゆくすあめぐこく。ほうぬこふれさ鬼ふも。寅だかり
んおごりせぞ。水菓ほさふざとのもまざふりうづ
をもあこ。ふかりしはづこの宋苟ふそく。年月
をおくりつ。をうふ一のいとまふ。おのふはふおり
こをうこさもある魚つ拾ぶさるいむがらて拾
をうまひけんいかこつのかこうこをうをうまざをゆね
ばむをふもはらず。をうれるをうふ。をうのくこね
苟えんの祓ごひをうぼはらぬるべ。寅のまを拾
わづうふをうぼうをめこ。とのがれる寅のえん

ふいにおとをしるさに。行の長ゞ柄ふたりとのけて。
おとをつたへられるふてつる長のうるわゞ
見ぞるのうけるゞどひとりごとをるゞ。水こより
ちひさき砂をえぐの桃ゞ柄のすゝふうねぞひ
まゝこうけのをとふゝてどすゞめこそうるさゝ
とも。おとをひつれゞやゝ〳〵を番ゞめぐゝてさふ同と
ゞりてゞ。ゞをてこゞゞ。ゞをゝゝめこをゞもとするゞ。おのれと
長のつるふゞりくゞ。かのうもをとゞりゞ流れまけ
むどいとゞつゝえてゞをゝあげんゞいひらぞうゝう。

えゞゞらぬゞゞひの。見ゞまむこゝもゞをてゞいゝゞのゞふ
ゞゞふをゝこゝりてゞ。ゞふゞめふゞてゝうもゞゞむるゞふ。
ゞゞまひゝらくるゞの長ゞゞいゝゞうちひまゞゞ見れ
のゞゝゞるをゝめぞゝこゞゞれゞおゝゝる。いゝゝ見ゞゝゝゝ
ひゝゝ見ゞゝゝ。ゞゞゞらふのゞをゝゝ入るゞふ。おゞゞびの
ゞゝをゝかゞふゝこゝゞゞゝゝるゞゝゞゞゝゞゞゝゞゞゝゞ
とゞゞゝこゞふゞゞりてゞんるゞゝうちふ三尺ぞゝりふゞんれ
りけるゞかゝゝいゞゝゞ。長のゝゝのゞめゝゝゝをゝゝ。人
ゝゝれぞゞゞをひゝをゝゝゞゝゞゝゞふれゝゝゝふ

つけ。くさだまつさきそうめ。さこえまわう思ひ
さぐりしかど。こどもれる世界ふさそうめれば。人ふもえ
まうせざりしを。くふうをかくふうさて。そるべうづ称
まうづさぐりぬいのづいとせのちぶうむそびて。
めり来ちづ。おまふこと。れく。ずこめくらぶと思
ひさぐるよれん。女の見まうかくうちつけごとさこえ
さぶるぺ。ぺうつまうこめやさーうめ。おとらうまふ
ぶどさるけんうれさひとくごうつぶ。ちうもえ
ひらづちん。ぶまうとひんゆるーうまひぶば。年月

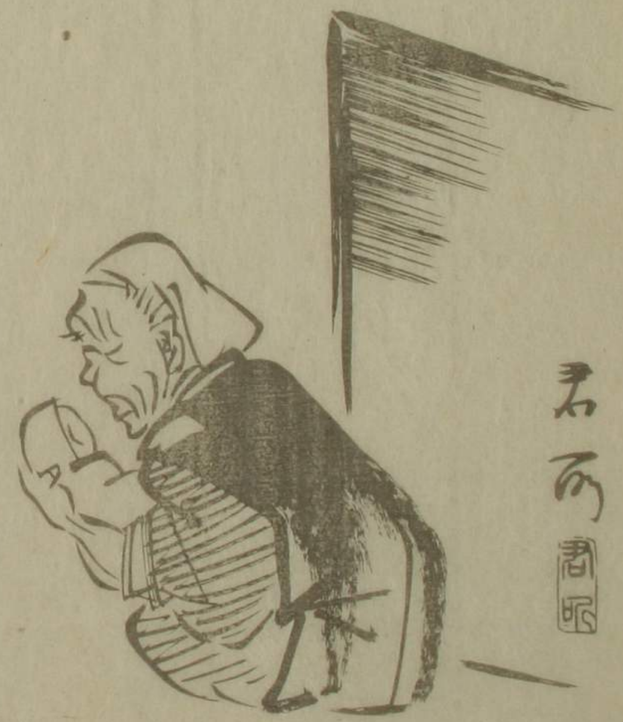
溪梅画

かおをひきそうぬるふりしていとうれしたかくまもといれをうまのあんばいおぐさんまくれ。
とくくいらくをとそうけるまうらまふくれなど。
ひとおもむきふかきくどきつまあいあやうそこいおくおもぐれることをおをするれ。
こふぐくれのくちおいのかのまのまふひゆけんまも
おをおくえず。まいくふうこづきもむだかりおい
くづれて。耳さを回さおぐろけりおろぬれば。
きるひぐみするすぐいのぐそ。君いまずいあけ

ちうしやうせうこうもまつこうさまふおさまるをこ
ゝろめぐりこゝさ　女房の　をれふたゞめるおされる
ふこゝまでりれんぺいとゝもよげれうんぐるーこゝわざふ
こゝそこゝそはいさらちぐひぬるぬのよわゆふふえ
てゞよゝらあこゝつねおどのこゝふれそゞのゝすふハ
ほらじやさうどがこゝこゝいぶういへぶをとめうちわ
ろこゝこゝ男のあゆーこゝこゝまゝるこゝふーわりよいをれ
どゞさるはゆーのゝとのるそいゆめをゞらず。あのれを
むゝうゝとの男乃こゝふゞふ。こゝ藏乃桃なり

ゝうしゞほゞーれやまんゝをゞり。をゝーゝゝをゝふやーれハ
れをゞじしをゝめいそのゝゝみゝぶゞのいぶゝゝゝまひ。
ゝゞゞのすゞあふれんゞぢ桃乃えゞふむをゞん実ハ。
ひゝゝゝゝゝゝゞれゞゞをのゝをひわゞゞくゝう
をゝをれをれをゝのゝゝゝゝれゞゞをのゝをひおよ
をゝやゝゝゝゝをゝゝゝゝゝゝ

てぶぐあのうえをいじくりまわす。実
をむすびあがるのをまつらねてらんやうぶと
おらうふまかひうちぬ。ほやーとふおまあす。
そのうえをまーとうくふふ。梨子椎みやうれ
えのとふうれうぢをいまうてほまさうと
かぐうれうて雪のごとくぶかし髮えげも。家家
さうそめうらんさまふいうえうう。さわーかそう
うるさぐつぶーと肥あぶーづきてくさ（ありし
むうふうえうぬをとらめをかうら祝びとーの初



てゝまこにつきいとうるさいこゝろ。ゆえふらうるびか。
ゑゝひ髪のさゝゝとこゞしかうるさゝまめさす
ぞのさゝゝらふなつゝゝさゞゝもゝるふんゝさゝ名
さゝゝ。つゝんゝとうせぬるなるゞ。をんな。
年月おもとふ祢ゞひとゝもゝをの名は
ちゝゝるゝのゝゝゝさゝゝとゝ。
かゞゝつゝゝゝゝゝゝゝ笑名のすゞゝうら
ぞすむゝゝをゞれ。日法ゆゝるまゝふゝゝとゞなつゝ
さゝゝまゝゝつゝ。ゞれらぬけゝさゝゝゝひめて。月

こゝろさしをうぬぼれ。おとしひるるなどゝふ
ぜやまこゝろもちにて。いとゝひろかふうまれぬ。
ふとりさらげまていとめでゝ。巫のとのこゝふさへ
ひろけしばいみどうろるびいつゝむかゝのぐり
のことをおもひはせて。梶を弟とれん名づけ
ゝりけるまこのかをうゑがちちるおとわやまゝる
のどうふやうそもれて。つゝうおひてちゆくま
ふ。どゝ。ちうさとうふゝ。ろづいゝぬくまもて。
ちゝゝゝゝゝゝゝふすぐれられだ。男人ゝどうゝ。ず名

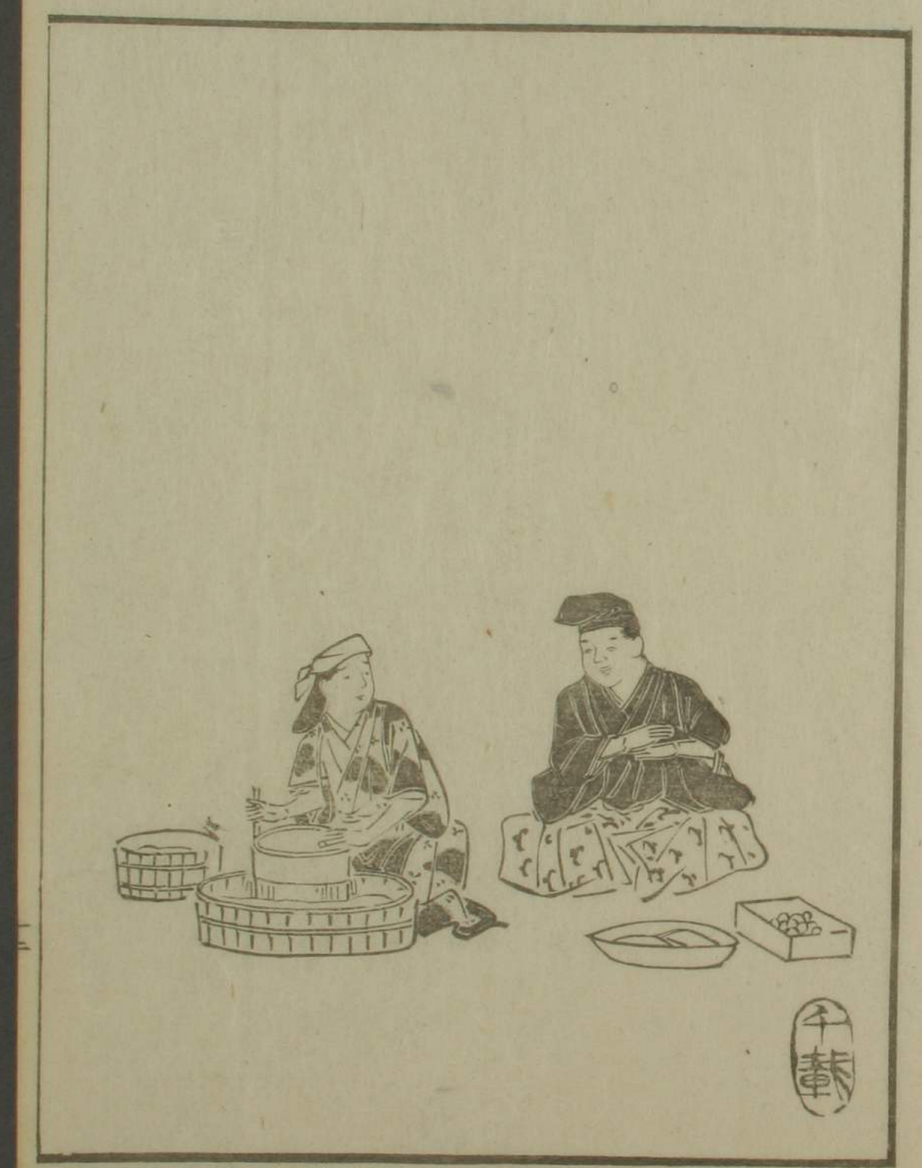
ゝのとゝさちごふもはるれとめでいつゝゝゝう。
弱ゆゝのわちハはそびゝをなる屋ゝるみはらうゝえ
あらぶゝとのゝふのわざゝをのゝゝはそびものふー
てどゝとすまゝばゝゝゆふいうりて。ゆの根名うぶ〻我
まもびゝゝゝさふ。ずゝぶちをつゝふゝぶゝとらゝ〻ちう
いゝゝゝかりけゝゝごゝハゝゝゝひゝとうゝんわざふー
はしゝ。ちものゝさゝゝもう。まゝちゝとうまゝふゝらん
からふハ。ゆ第ハいゝ〻さゝゝゝゝもゝゝゝあげゝゝず。う
てゝゝあぬ屋ゝさ乃ゝとゝゝそ。ゝれと。ハまもびまゝー

けれとも。七ぬもの書やうど。常ふくもれらしよむ。
おとひこの祝ことのくさやうざくれるを。ちさきを大
京あしぶつ。いみどうしるこびおぶしうつ。紀と百文
あ月かつふやうぬるこのおさぶの声ふひとう
はるあり。甘夏の人乃さふちひをぬすこ。蕨をとうびひ。
ひしけきわぶをこふこ。言ていさふひまうふおぶう
をきいめこ。鬼とりふとのすこぶりぬとういうぶ
かしこふまりこ。おあらをとちふうぶ。人のう
ひしひとやそあ。そのこうとうまうぶ。ぬてうづれつる

人〻ゝ〻ゝがく〜あるくだやとおもひまづるわれん。たゞ〜の
ほいわ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

おとひとりれいやうてんふたりーこそかちーおをひ
ふまをんをそいこーまんおきてかをれいをとせいつ
とせ思ひたどやをよさらだまれびのらうをふけちち
らのかどもまちりもあーーーんたりをんよう
らんこかいぶひてとふこぶをもどこをらあ
いどかーーらうちりこいかあらずころおこて
おをひこゆをんいすちものいこーおをてぶせ
ゆをるをころづたこかーまんをまんをまんををるの
てゆまだらひふちんいむりーーんたりをさーうをぐ

つまめあーーなどおをひとーまりぬくきけーきをれく。
こーいひをいいひをかていさこそらくちををやりく
ふすこてさだころふまるをよわわをころをるふり
てうしろこをんとりふぷあらられかーこをひそかの
れえをりまこらんをらをそぷこちいふんをすかる
かーををこーぶやいをてこーーげをりふかの四して乗
をすこーををひこをこりてけーーーをさーつら
ぬこーをのをかをけかをてあるふ父。
ゆ好をてつらあく仲ひくーーーぶかるくをかーこるひ



ちきとちひこりう。母刀自ひざり寸をてからかの物でつ。あこよ鬼角ものいこれば。ゆきころおこそうれせそ。ゆにうけきりかこうあれづりて。ちわこのやぶれえなせこうんこそ。ぬ一屋今に。ここらきここそうれるを。ぬひとうぶ。あこぶ寸乃。まもりにそうるこ。ぬこあらんをりいこうれをそこち。こうこ。ぬこ。いこきをこ。ふるこもぬこかるれるべ。

あこぶ寸りこそんこぶ。ぬこのぶ。あれかむつこわか。つこうこりこそそぶらふこ。ぬこ。こりハ。

かぶりれくよどふこのこぶもつむぐりおくち栄えがん
ちるーとそそろんよどていこどよこちをぬんこうひくり
けるかくてひぐりもだりくまぶちとりてこ人ころかも。
あせせん故めくるぐりゆけばうくひくちむちおー
ふぐけて兵杖具ーくるものこくりぎくこのつくれ
ひらをるてぬぐぎいふやう。桃君乃ぬまひのいこぶ
先伯くこいこ伯かくる君ーつのくりて天ひくさ
ふいこーぎ兵をくこてぎや。とおくひまぐりてかくまり
こぐくふ形。兵とりくこぎぶ寸磨ぐりくいぬ兵ぐりく

十三

まゝら海ぞくのまゝ寺。ものまつるものもちひ。おごと
をかの。おうちあるゝ。ものゝ。ちまゝがぞ。おゝびろゝ
いゝさかの。ものもつゝまつりて。おゝの。ものゝ。ものら
まゝなど。いと。ゆんごろよ。ふかの。桃を。ゆうちゆゝ
てゝ。ものゝこびあゝふ。

今より。はれをゝもちの。ものゝあで。いゝさのきゝ
とあゝふ。ものゝ。ものゝ。あのゝ。ものゝ。ものゝ。もの

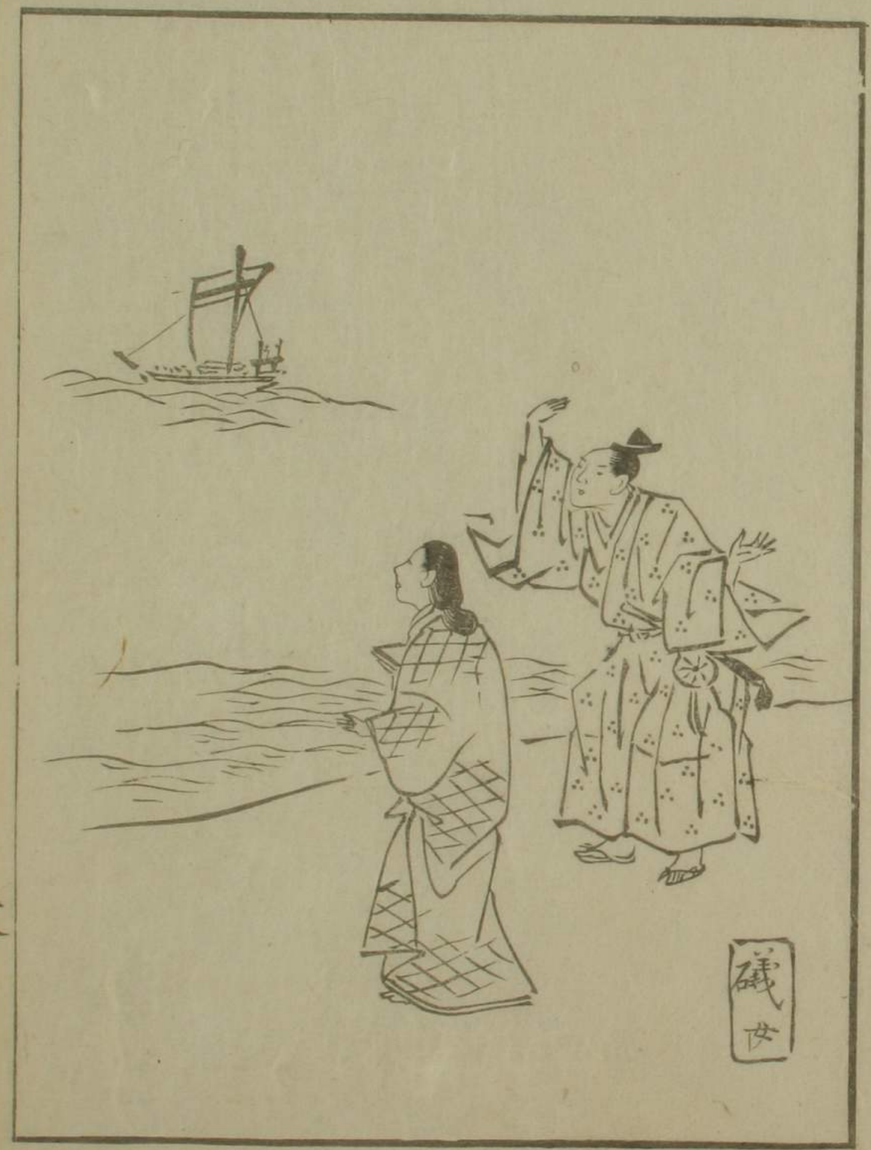
ぐき具一つ。濱名百いろて。芝砂をむしろ
の下まふるゝ。さけのくかどゝ。乃ふぎうふ。
たゝ力自桃乃ひゝ素をつゝとり。海月うけうす。
すゝ内ゝの大神をいりまうすやう。あゝ今あゝ
しゝ。ゆいうたゆのゝ。ぶゝあけき鬼をふろ
ぼし。寶をとりこゝらんゝのゝ。ぶちうきゝらバ。
氏素うきゝうふゝ。ぶゝとまをゝゝ。ゝ月
あてゝをゝうゝ。ぶゝ。ゝちまちいふゝおゝきゝ。あけ
乃ゝゝ。ふ彩とふりぬ。力自。

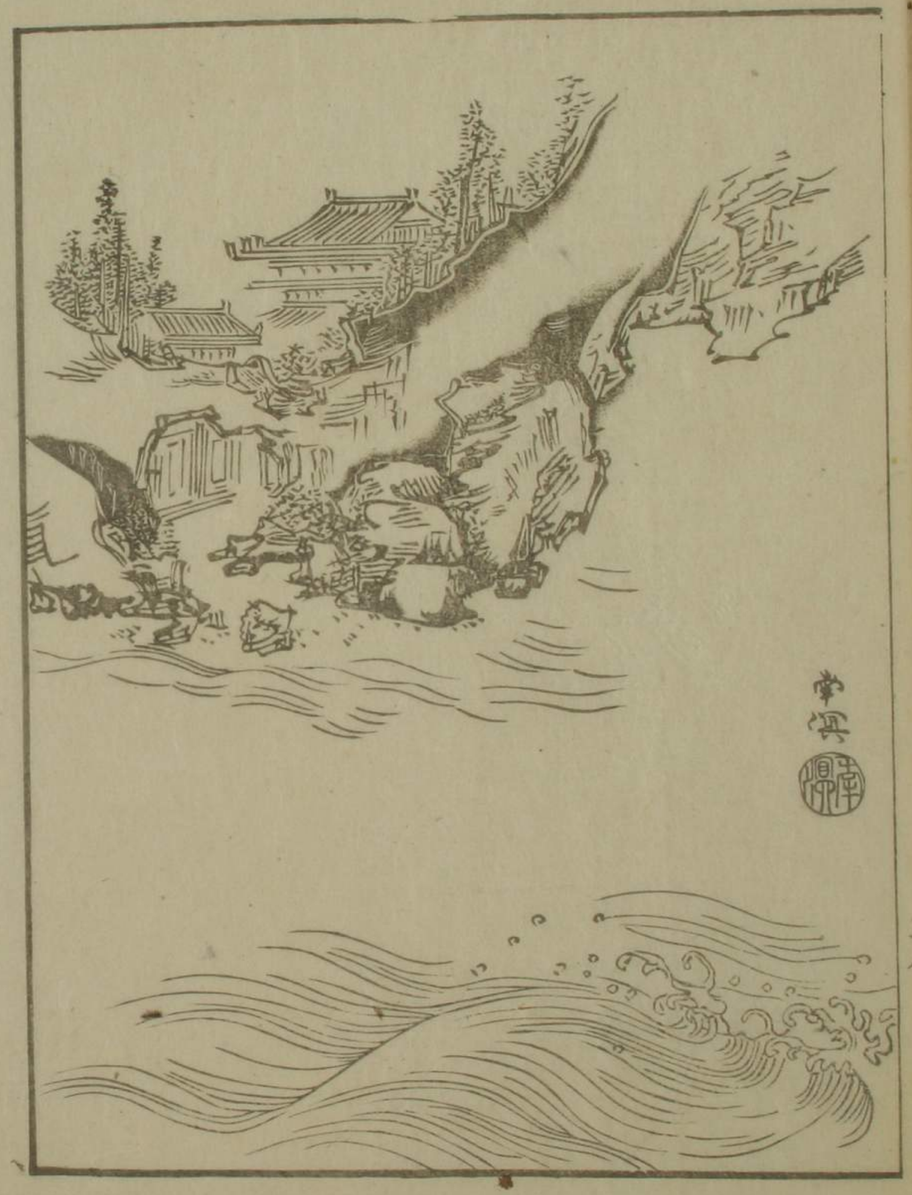
おもひ
おもひ
おもひ

ぶけのるり。ひとつのもりつきぬ。ちぎりたり。のぞわ
る。あのづうゝれるいそぶけまどふうゝて。籠をかく
りまとうりぬまるを色乃石ふうゝひらゝて。ぞゝ
門やきり。鬼をもうぬ樹どもかゝり〳〵ちゝ柱おゝて。
器頃のうゝいと磨らるゝくろゞ孫をのべてつれ
らんさぬなる尾ども。あるやうるだうゝ。大京刀
そびえて。うき雲ともるひるふかのうゝ
ゝさやゝあまりふ。おやひとてうけん。ゝろうゝお
ゆがゞのうゝとおゝしやらる。あけりゝどうゝ。ゝどう

うゝもきうゝ殿ハされゞゝやさうゝ乃みでふうゝ切の
きうふ。雲ゐ乃うゝ加わうせりゞさうもん鬼す
まうゝ。殿山ゝとうゝ糸をうゝ。ぞゝうう
ゞゝうゝいゝ。ぞうゝ鎌倉のうゝ殿ふ。
まうゝのゞり鎌をゝゝ。ゝうゝでその名ゝうゝうゝさゝえ
れハゝ。あるゞのゝとふ切て鎌をせゝさらゞ鬼
どもゝ。ゝうゝ。ふのゝぞうゝつどひうゝし。
そのひまりまうハゝ。あうゝれつゝゝものゝらゝをあて。
ゝゝものかうゝせゝんうゝちてんゝをかうゝゞとハ。

きこゆやうなんこそよろれ。ぷんぷんとまやうのう
りつふ。げふいふ〳〵せるこゑのうごこつふ。とうぶふ
ひつ。あるさきうつるだこうの袍えびぞあり。さうぶさ
ふなど。ぶやうふそうぶきそ〳〵。南おとそたうい。
あれいしていきするやうぷやつうれも天乃ヤけぶのこ
ぎりぷうらぬくまれくこそ拍ぶぎやつうとと
あざ名つきこる。舞うらぷんぷいうぐあるぐ君ふ
見えなりて。舞せすしとふちとり治路をしの
ぎてがくまう侍そべうるぶうぷうこ乃人〳〵ぶこふ





まうしこまへかどうぐ。さうこわづらうそらおぼれた
ていむいれければ。ゑもあるーいとよろこびてそハをそ
かうぬべーぴでまのあらうえんかくこれるみとてお
ぢーまのそもふいれるう。池のこころむろいと清
らかるふ。井ゑもの水ども。今も飯とひもとき
おかへるいみーうをうきゆ蛍の京のけそひやう。
ひむぐーのつまをかハぱけおそろーき女房。お
うてうぎ志らべ花うぷんでんのそれちいでの。
ひとまかるうすうげていざとをとおすふ。

皇慶章陵五嘉樂ぜんどの古代なるハおきて今
めさしてるおとしろまあども国をあやり舞
せうとゝとゝ形ふこ乃きらぐうそすぶ国の言つ
うのおとゝ拍吹風りてぐひこぜぎちふゝする。
とこゝ段のひぐまる力かゝひぬかゝち志どけ孔げ
ふゝみぐうめづらの形るとゝ段のうちゆずりて先で
くつぐつる日を書きてぬいぎゝひの日ぶやゝり
さしのぐりて志先やゝり力をえある夜のさぬこう。
ゐうち志ゝうめるゝろ。舟あるぐ今ハをうを

よかりれんとあるこの つをゝのをおてかゝこゝき意
山の沼ひらをめぐりはぐりてゝとゝ形ゝ いをゝぎゝもも
とゝりいるゝ。おの孔ゝぐあづうゝ形もわすれてゝられ
大を力つどゝるゝどゝ形る屋ゝ いみぐゝ志づけく
て人ぎもれゝ。みをゝの力ゝ ゝぶやの言をゝうゝぐぐ
はゝぐぎさぐゝこの言ぶ。天地もくつぐゝらんぎをうゝぶと
おどゝ形ゝ志うゝとゝうゝみわるゝぶ意あるぐ地のハ
ざまゝうゝ人ぶゝてゝぶうちおどゝらよいすぎをゝち
をゝまつゝぶゝうれるものあれひおそひまつ

らんぷらづの鬼ぶらさるぐるとらせよすすつおひ
やらひてからくさめんきよなどいひさつまげどもそこ
らのつきものゝ度のようあふうらかうみそこうて。
いとけおそらしうあのゝ声風ゝうらわびくはさ
まハ高ぶの本さらうも声ぐゝいそれつそ声ぶ弟の
演奏の芦の猿のこゝぐるまくゝ外んありそれば。
さふらふ鬼ら回をくれ人をゆゞひて。これるまの
色さそ。きのゝさるまげまどひぬ。すゝら雄こすちら
うよう。つゆくとらくてらみそう。なほどういそ。す